ようこそ

第 12 号
浄土真宗本願寺派
円 光 寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097－527－6916
FAX097－527－6949

朝のひととき

（上）ある日曜日のお朝事のようす（2007年12月16日 朝6時45分）

（左）一人、二人とお同行が本堂に向かいます（同、6時10分）

お念仏で始めましょう

二〇〇八年（平成20年）がスタートしました。新しい年への期待や不安、さまざまな思いを胸に、皆さんそれぞれの生活を始めたことでしょう。

私たち浄土真宗門徒の生活は、お念仏で始まります。

円光寺では、毎朝六時半からお朝事のお勤めをしています。一年３６５日、雨の日も風の日も、六時に梵鐘を、六時半に喚鐘をついて、お正信偈さまをお勤めします。

「キミョウムリョウジュニョライ」と住職が出音し、ご門徒衆が「ナモフカシギコウ」と続きます。夏はにぎやかな蝉の鳴き声に負けないような大きな声で汗を流しつつ、冬は身にしみ入る寒さをふき飛ばすような強い声で白い息を吐きながら声を一緒に合わせます。

今は常朝事のお同行は八人ですが、日曜日には十五人に増えます。平日は仕事をもっている男性の方や食事の準備など家事で慌ただしい女性の方々が、時間を繰り合わせて一堂に会します。

それぞれ違う生活ぶりの皆さんが、仏さまのご縁をいただいて、同じ時間に、同じ場所で、一緒にお念仏を申して、それぞれの一日を始める。本当に有り難いことで、生きる力をいただけるような深い感動をおぼえます。

六時前に本堂の電灯をつけます。冬の暗い空間にぽっかりと明るい家が浮かび上がります。お寺は如来さまのお家、お浄土につながります。今日も暗い参道をお同行が一人、二人とお参りです。

「ナマンダブ、ナマンダブ……」と阿弥陀さまにお礼を申し、お互いに「おはようございます」と朝の挨拶を交わします。

お浄土への旅の一日を、お念仏で始めましょう。

ご門徒皆さんのお寺です!!

～お寺は私のセカンドハウス～

お寺を見る目

「今日はお寺で何かあるんかえ。人がよけい集まっちょるみたいやけど」と、ご門徒の方から言われたことがあります。

お寺をあずかる住職として、日頃のご門徒さんとのコミュニケーション不足を痛感するひとこまです。

一年間の法要行事計画表を配布し、毎月発行の寺通信等でその都度詳細にご案内はしていますが、その人、人への声かけができていないんですね。ご縁に遇うことの難しさを思い知らされます。

「最後の最後はお寺にお世話になるから」という声もよく聞きます。逆に言えば、その時までは関係ないところが、お寺なのでしょうか。

「お寺は敷居が高いから」とも言われます。寺に住まいする者からは見えない何かバリア（障害）があるのでしょうか。

お寺は誰のもの？

浄土真宗のお寺は聞法の道場といわれます。仏法聴聞といい、仏さまの教え、南無阿弥陀仏の本願念仏のおいわれを聞かせていただく阿弥陀さまのお寺です。

そして、このお寺はご門徒皆さんのご先祖有縁の方々がご懇念を寄せ集めて建てられたものです。「仏さまの教えを聞いて、この人生をお念仏申して生き抜いてほしい」という大きな願いがいっぱい詰まった、まさに私たちのお宝ものなのです。

本当に私たちのお寺といえるように、お寺にお参りして「ああ今日もお念仏申せた」「お念仏のみ教えを聞かせていただいた」と喜びいっぱいに、日々の生活を送らせていただきたいものです。

ご懇志をはこぶ

お寺の法要行事はご門徒皆さんのご懇念で勤まります。

報恩講には御正忌米懇志、降誕会と春秋の彼岸会には御仏飯米懇志ということで、仏さまにお供えをさせていただきます。

浄土真宗門徒として、私ができる精一杯のご懇志をはこばせていただきましょう。

4区仏婦会員による余興で
「月に一度は円光寺で会いましょう」
（10月3日、敬老会）

ご案内

◆**元日会**
1月 1日（火）　除夜会に引続き

◆**初法座**
1月 2日（水）　10:00～11:00

◆**常例法座**（親鸞聖人祥月御命日）
1月16日（水）　10:00～11:30

◆**常例法座**
2月15日（金）　10:00～11:30

◆**春彼岸会**
3月19日（水）　11:00～14:00
同　19:30～21:00
3月20日（木）　13:30～15:00

◆**花まつりの会**
4月 7日（月）　9:00～12:00

“月に一度は お寺参りしましょう”

世々生々

月探査機『かぐや』から、私たちが住む地球の映像が送られてきた。暗黒の宇宙にあって、ひときわ光り輝いている、小さな小さな星である。人類初めての宇宙飛行士、ソビエト（当時）のガガーリンは「地球は青かった」と言った。水と森が多くの生物を育む、いのちの惑星である◆一つのいのちを生きている。人間だけでなく、動物もその他の生物も、みんな一つのいのちを生きている。阿弥陀さまは私たちを「十方衆生」とよばれ、全ての生きとし生けるものを分け隔てなく救うとおはたらきである◆地球温暖化が深刻だ。世界の主要国会議で環境問題は避けて通れない重要課題だ。しかし各国の思惑があってなかなか本腰があがらない。そして今日も地球環境は悪化の一途をたどっていく。とことん困らないと本当に気づかないのか。それほどまでに私たちの感覚は鈍い◆地球は私たち人間だけのものではない。お釈迦さまは縁起の法を説かれた。この地球に共に生きる私たちは、あらゆるいのちのつながりの中に生かされて生きているお互いである。仏さまの教えを聞いて、今私ができることから始めよう。

お朝事『法話』より

自分だけの楽しみ

ラジオの『誰かとどこかで』という永六輔さんの番組で、タクシーの運転手さんの楽しみという話を聴きました。

永さんが東京都内でタクシーに乗って「〇〇に行って下さい」と言ったら、「ああ、今日はサンマか」という運転手さんの声が聞こえたそうです。「何ですか」と尋ねると、実はお昼どきに、行く場所によって昼食をする食堂を決めていて、メニューも、ここだったらサンマとか、お鮨とか、テンプラとか、うどんとか、そばとか決めているということです。

タクシーの運転手さんは、今日は何処どこに行きたいと思っても、乗客の言われる所に行かなければなりません。まさにお客さん次第ですが、そういう中でも楽しみがあるというのです。

それは、「こうしなさい、ああしなさい」「こうしないといけない、ああしないといけない」と、人から言われて決められたことではなくて、この自分だけの楽しみです。

私たちの人生において、こうした自分だけの楽しみを見つけることができたら、本当に毎日が楽しいでしょうね。

皆さんにとって、このお朝事のお参りは、どうでしょうか。

「朝早う起きて、毎日よう続くなあ」とか「お寺に参って何かいいことあるの」とか、周りの人から言われると聞きます。

「なぜ寺参りするのか」とお参りする意味を云々したり、お参りしないといけないと力が入ると、長続きしないと思います。

お寺参りが楽しみになってしまえばしめたものです。これほどぜいたくな楽しみはありませんね。そして今度はこの楽しみを、あなたの隣りの人にも伝えていただければと思います。

（11月6日）

歌と踊りで大いに盛り上がりました
（10月3日、敬老会）

念仏のみぞまこと

年末恒例の「今年の漢字一字」が発表されました。「偽」という字でした。有名食品の偽装問題や年金などの政治不信が反映されたということで、清水寺の貫主さんは「こういう字が選ばれるのは誠に恥ずかしい。悲しいことだ」と、今の世相を厳しく切り捨てました。

偽という字は、人偏に為と書きます。人の為と、また人が為すと読めます。人の為に為すことが、なぜ偽りなのか。

人、つまりこの私が為すことは、どこまでも「私が、私が」という自分中心の思いに基づく行為であり、人の為にといいながら、人の為にしてあげるといった傲慢な心が見え隠れするのがこの私の有り様です。

まさに仏さまから見れば、この偽という文字は、この私そのものなのです。

親鸞さまは「煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」（『歎異抄』後序）とお示しです。

刻々と変わり行くこの世のことに惑い、身を煩わし心を悩ます、迷いの私です。常住真実のお念仏の教えを聞かせていただく中に、仏さまのお心にかなうような生活を少しでもさせていただきたいと思います。

（12月13日）

『しんらん文庫』をご利用ください

本堂に「しんらん文庫」をおいて、本願寺新報や『大乗』『御堂さん』の定期刊行物のほか、法話集や絵本もそろえています。

子どもから大人まで、広く仏さまのお心にふれていただきたいと思います。貸し出しもいたしますので、申し出てください。

『本願寺展』に行きました

10月25日(木)に、九州国立博物館(太宰府)で開催の『本願寺展～親鸞聖人と仏教伝来の道～』に日帰りで行きました。

平成23年にお迎えする親鸞聖人七五〇回大遠忌の記念事業で、聖人の熊皮御影や絵巻物など本願寺ゆかりの文化遺産を鑑賞させていただき、聖人はじめ先人のご遺徳を偲びました。

お昼からは小石原窯元を見学し、秋の一日をゆっくりゆったり過ごしました。

バス一台貸切で44名がご一緒しました
(10月25日 九州国立博物館前)

秋の彼岸会

「お茶の会」メンバーによるお抹茶の接待
(9月22日 夜席)

お月見法座

9月25日の中秋の夜、お月見同行と本堂前の境内で月を愛でながら、一献かたむけました。上空に満月が見えます。

御正忌報恩講

11月26日から28日まで、三日五座のご縁をいただきました。

ほれぼれと、仏法聴聞のようす
酒井信也講師(宇佐市円徳寺住職)

26日の夜「子ども報恩講」をお勤めしました
(左)おせったいで、ぜんざいをおいしくいただきました　(右)恒例の人形劇「笠地蔵」を上演しました

さくらの華が咲きました

百華の集い「さくらの会」修了生の皆さん
(9月23日)

あとがき

「光陰矢のごとし」とはよくいったものだ。時間の経つのが本当に速い。あっと言う間にこの一年が過ぎ去っていった。

日々の生活の中で「一体、今日一日、何をしていたのか」と、しばし立ち尽くすことがある。充実した日暮らしとは何をもっていうのか。

私はこうしました、こうしましたと、多事に忙しい人が充実しているのか。

お念仏申しつつ「私は私でよかった」と言える人生を、今年も一歩一歩あゆんでいきたい。